

戸田康之さん『卒業式』（3月28日配信）

こんにちは！戸田です。よろしく。
今日のお話は卒業式です。

3月は卒業式シーズンですよ。私の娘も小学校の卒業式を終えました。

私は今、ろう学校に勤めていて、3歳から5歳児の幼稚部で教えています。今年度は5歳児の年長クラスの担任でした。毎日一緒にいる子どもたちは本当に元気です。毎日外で遊びまわっています。それだけじゃなくて、毎日必ずケンカが起きます。毎日毎日いたるところでケンカしていて、私もとりなすのですが手が付けられません。長年幼稚部の担任をやっていますが、今年の子どもたちは突出してケンカが多いです。毎日毎日ケンカしていて、よく飽きないなと思うくらいやっています。これまでこんなことはありませんでしたが、こんなものかなとも思います。

そんな年長クラスですが、先日卒業式がありました。卒業式は、本番前に必ず練習をしますよね。年長の子たちもやりました。入場や着席、礼のしかたや、卒業証書の受け取り方なんかも練習しました。

練習自体はうまくいくのですが、1人の子が練習していて、他の子が座って待っている時に、待っている子同士でケンカが始まっちゃうんです。今練習しているんだからと静かにさせようとしてもお構いなしです。今まで受け持った子たちはこんなことはありませんでした。しかも大泣きです。式の練習中にケンカして泣くななんてどうしたものかと、私は本番がすごく不安でした。本番は、校長先生や教頭先生、保護者がたくさんいます。そんなところでケンカが始まってしまったらどうしよう…と本当に心配でした。ですが、卒業式当日の子どもたちはきちんといすに座っていて、えらかったです。無事に卒業式を終えることができました。

幼稚部の頃に子ども同士でケンカができるなんて、本当に幸せなことだなと思うんです。私自身が幼稚部に通っていた頃は、学校で手話は使えず、相手が口話で何か言っても何を話しているかが分からなくて、とてもケンカなんてできませんでした。

でも、今の幼稚部の子どもたちには手話があります。聴力は関係なく手話を使って言いたいことを言い合ってケンカになるんです。本当のケンカができるなんて幸せだなと思います。

それに、以前の幼稚部は先生がすぐに割って入っていました。子ども同士でケンカが始まりそうになるとすぐに間に入ってやめさせていたんです。しかし、今は私や他の幼稚部の先生も、割って入ることをせず、子ども同士で言い合いやケンカをしてもいい、そういったことの積み重ねこそが大事なんだと考えています。

日々ケンカをしながら子どもたちが成長していくことは素晴らしいことだと思いますし、これからも、私のいる幼稚部ではケンカのできる環境を大切にしていきたいと思っています。